

# 桜工

日本大学工科校友会

No. 68 1986

## 目 次

学部長挨拶	2
特集・変貌するキャンパス周辺（その3）	3
習志野の昔と今	3
T君への手紙	4
部会だより	5～6
土木・建築・機械	5～6
電気・工化・薬学	7～9
物理・数学・交通	9～10
精密・海建・航宇・電子	11～13
クラス会だより	13
機械・工化	13
地方支部だより	14～15
北海道・秋田県・山形県	14～15
福島県・栃木県・茨城県	16～17
埼玉県・石川県・長野県	18～19
大阪府・香川県・愛媛県・沖縄県	19～21
職域支部だより	22
東京都建設桜工会・東京都水道局桜水会	22
NHKさくら会・国鉄、鉄道公団桜友会	23
鹿島建設桜門会・千葉県庁桜工会	24
事務局からのお知らせ	25
正会員終身会費59年度納入者	26～29
昭和58年度終身会費納入者	29～30
地方支部職域支部一覧表	31～32



理工スポーツホール 日本大学理工学部習志野校舎（昭和60年2月）

## 習志野の昔と今

高田 邦道

早いもので、習志野校舎の周辺をタイトルのように「昔と今」で描写できるほど時は流れた。昭和40年4月の開校以来、20年の月日が経った。当時は交通の便もなく、国電津田沼駅前から津田沼校舎（現生産工学部大久保校舎）経由、美人のバスガイド付き観光バスが学生の送迎を行ったことも記憶に新しい。この恩恵(?)を最初に受けたのが、交通工学科（現交通土木工学科）と精密機械工学科の5期生（昭和44年卒）である。道路の左右は、一面「すすき」の原、所々に土地造成中の風景がみられるだけで人家も少なく、授業に出かけるよりは捕虜収容所に連行される映画そのものであった。こうして、到着した習志野校舎は、動物の宝庫であった。「すすめ」、「まむし」、「いたち」に「うさぎ」が仲間達である。しかし、禁猟区でなく、空気銃的になったすすめは実験室で姿焼きとなって、無残にも若者の空腹を満たすことになった。今は禁猟区ですすめに、「むくどり」の応援が加わり北習志野駅前の街路樹が寝城となって、騒音と糞公害を引き起こしている。まさに鳥達の復讐である。

キャンパスの中でよく「まむしに注意」の看板をみかけた。血清がいつも用意されていたと聞いてはいたが、幸いなことに一度もお目もじすることもなく今日に至っている。そのかわり、青大将や山かがしにはよく出くわしたものである。

「いたち」君や「野うさぎ」君にはよく野球の仲間に入って戴いた。外野に飛んだ球がいつか2つになったと思ったら、それはいたちであったり、野うさぎであったりした。野うさぎが最初に出てきたのは、確か昭和54年の夏であったと思う。その時は、これら動物の縄張が住宅と下宿に占領されていて、

住処を追われたのか衰弱しきってあらわれた。

昭和41年からは新京成北習志野駅が開設し、駅から習志野校舎が見通せ、直線1.5kmを真直ぐに「けもの」道ができていた。その後、住宅団地の用地や分譲住宅ができ、現在は高級住宅地に様変わりしている。お陰で、学生の通学路が塞がれ、住宅地を通れば苦情が、住宅地内を避ければ危険が迫り、足なしキャンパスは皮肉にも学生の卒研テーマになっている。キャンパス、住宅地ともにさら地にできたにもかかわらずこのままだである。わが国の都市計画の悪さのモデルケースそのものである。この僻地（駿河台校舎の多くの先生はこう思っている）に、大手町を通る地下鉄東西線（西船橋以東は東葉鉄道）が伸びてくることになった。すなわち、東京の都心まで40分の至近となり、住宅地としての価値は正に上らんとしている。地下鉄の延長は、これからの習志野キャンパス周辺変貌の最大要因となった。1区画100坪を有する周辺の住宅地が東の「成域」になり得るか、地下の値上りに抗しきれずにミニ開発へ動くかは、一つ、理工学部の「格」にかかっているようにも思われる。このように、習志野キャンパス周辺の変貌とともに校舎内の整備も進み、団地とキャンパスの見分けがつかなくなったキャンパスから、親や恋人に誇りうる大学らしいキャンパスに変貌した昨今である。

まだ書きたいことは山ほどあるが、紙数の関係で筆を置くことにする。しかし、一つだけどうしても書かねばならない。それは、あの明るい空を覆った春の砂嵐「黄色い空」である。その姿は、遠くへ消えてなかなかカンバックしようとししない。風だけは相変わらずだが……



◎日本大学工科校友会誌委員

委員長 佐川 廣司(機械)  
副委員長 藤田 幹(建築)  
副委員長 長江 啓泰(機械)  
委員 木村 吉巳(土木)  
委員 近藤 勉(土木)  
委員 伊藤 堅(機械)

委員 富岡 義隆(電気)  
委員 南山 斎(工化)  
委員 越智 健二(工化)  
委員 岡村 信(薬学)  
委員 青木 正忠(薬学)  
委員 小西 和夫(交通)

委員 清岡 進(精機)  
委員 野木 靖之(物理)  
委員 川岸 正樹(数学)  
委員 網野 敬司(海建)  
委員 谷口 重範(海建)

## 編集後記

母校である理工学部も、新しい学部長木下茂徳先生のご就任で、新たな発展が期待されています。

桜工は、校友への唯一の情報交換・提供紙であり、毎年多数の卒業生が校友として参加されるので桜工の発行部数の増加は必然であります。同時に校友に愛読される紙面づくりに会誌委員も任務の重大さを痛感しております。

本号より新しくクラス会だよりの欄を設けました。これまでの地方支部、職域支部だよりに加えて学科、卒業年次毎の楽しいニュースをお寄せいただきたいと思います。なお、ご投稿いただくときには、事務局までご連絡いただければ、原稿用紙をお送り申し上げます。会誌委員の任期もあと1年、お役に立つ紙面づくりをと考えています。

昭和61年3月25日発行

発行所 日本大学工科校友会

編集・発行者 佐川 廣司

東京都千代田区神田駿河台1-8

電話 03-293-3251 内線 206

振替 東京 3-162710

印刷所 有限会社 ムサシノ 総合印刷